

⑪ 健康な地域社会（まち）

現 状

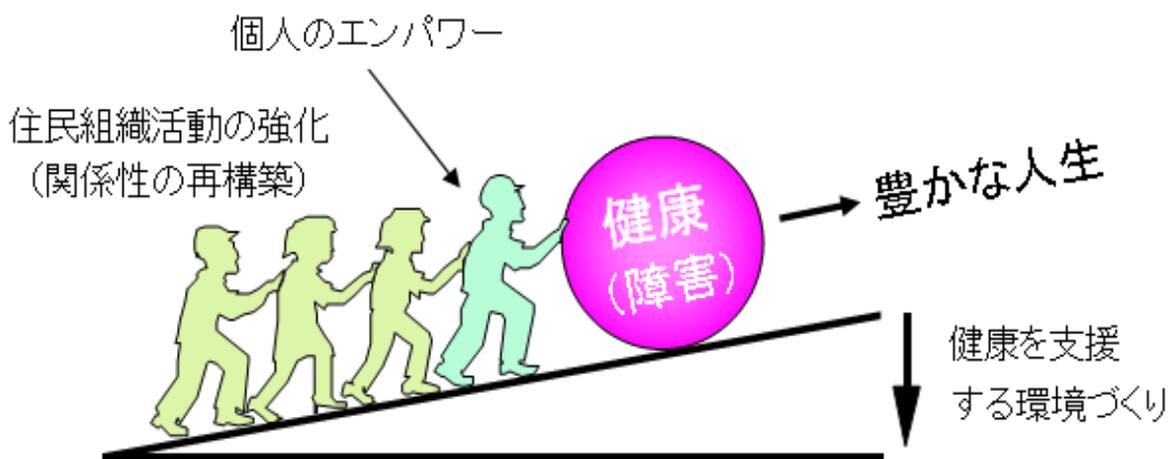
- ボランティアコーディネーター養成講座の参加者数は、平成 14 年度の 28 人から平成 21 年度 3 人へと減っています。しかし、ボランティア登録グループ数は平成 14 年度 40 グループから平成 21 年度 88 グループへと増えています。また、ボランティア登録者数も、平成 14 年度 1,121 人から平成 21 年度 1,737 人へと増加しています。
- 介護予防拠点施設である 5 か所の宅老所で活動されるボランティア登録者数は平成 14 年度 448 人から平成 21 年度 392 人となっています。また、お元気かい専属ボランティア数は平成 14 年度 18 人から平成 21 年度 10 人へと減少しています。一方、宅老所利用者数は平成 14 年度 4,246 人から平成 21 年度 6,554 人へと増加しています。また、宅老所ボランティアグループ数は平成 14 年度 27 グループから平成 21 年度 34 グループへと増加しています。
- 介護予防拠点施設の一つである、ものづくり工房「NPOあかおにどん」、IT 工房「くりっく」、「全世代楽習館」は NPO が中心となり、施設の管理ばかりではなく、それぞれ特徴ある市民のための活動が展開されています。
- 高齢者の働きを提供するシルバー人材センター登録者数は平成 14 年度 460 人から平成 21 年度 428 人へと減少しています。
- いきいきクラブ登録者数は平成 14 年度 1,503 人から平成 21 年度 1,749 人へと増加しています。
- 育児中の母親の居場所である児童センターには、自主グループがあり、平成 14 年度 226 人から平成 21 年度 195 人へと変動はありますが、子育て情報交換や相談等の活動をしています。子育てが楽しいと思う人の割合について、一次計画は不明でしたが、平成 21 年度 53.1%です。
- 健康づくりリーダー会の会員数は平成 14 年度 44 人から平成 21 年度 30 人へと減少していますが、リーダー会の活動は継続しています。
- 趣味がある人の割合は平成 14 年度 66.0%から平成 21 年度 68.8%へと増加しています。「健康」とは「気持ちがいきいきしている」と思っている人の割合は、平成 14 年度 61.9%から平成 21 年度 71.0%と高くなっています。
- 各町内会推薦の「健康づくり推進委員」は、昭和 58 年の発足時、「自身と家族の健康づくり」からスタートし、現在では、「地域を対象とした生活習慣病予防、高齢者の介護予防などの活動」へと拡大してきました。平成 21 年度には 36 名が活躍しています。
- 平成 21 年には市内の全ての小学校区（高浜南部、吉浜、翼、高取、高浜）で 5 つのまちづくり協議会が新しいコミュニティ組織活動をはじめています。各小学校区の町内会や各種団体、住民が連携して、地域の問題や課題について取り組み、まちづくりを進めています。

課 題

- ボランティアに期待される活動も多様化し、資質の向上が求められています。また、市民へボランティア活動を報告していくこともモチベーションを高める上で大切です。
- 「シルバー人材センター」の登録者が減少していますので、市民へ活動内容などを伝えていく必要があります。
- 介護予防拠点施設の利用についても、生きがいづくりの場として紹介していく必要があります。
- 子育て支援グループや食育ボランティアの活動が活発になりつつあります。子育て中のお母さんのサークル、講座なども継続していく必要があります。
- 健康づくり推進委員活動は地域色をだして活動していく必要があります。
- 今後も「健康づくり推進委員」の活動においても、より地域のニーズに合わせた、幅広い活動を実施していくことが期待されます。また、「健康づくり推進委員」卒業生が継続して活動できるような仕組みづくりが望まれます。

健康豆知識

ヘルスプロモーションの理念



(島内 1987, 吉田・藤内 1995を改編)